

授業次学年繰り越し可

コロナ休校教育長が認識

福井市の吉川雄二教育長は8日、新型コロナウイルスの影響による小中学校の臨時休校で受けられなかった授業について、次年度に繰り越しが可能との認識を示した。国の通知を踏まえたもので、繰り越しができない最終学年の小学6年生や中学3年生については1日の授業数を増やして対応するとしている。

(菅野佑斗) 【2面に関連記事】

の速度で授業を終えられるよう授業日数の確保を要請している。

また8月30日に児童の新型コロナウイルスの感染が判明。児童が通う市内の小中学校が8月31～9月3日まで臨時休校となった。

吉川教育長は一般質問で、今後さらに新型コロナウイルスの陽性者が出るなどして学校を臨時休校にしなければならぬ場合、「1日の授業数を増やしたり指導事項の一部を次年度以降に移したりといった特例的な対応がある」とした。各校の学習状況について吉川教育長は「協働学習など学校でしかできない学習活動に重点を置きながら、効果的な学びが進められるよう工夫して取り組んでいる」と強調した。

市会一般質問で、山田文葉議員(共産党)の質問に答えた。

学習指導要領には各学年での学習内容が載っているが、国は5月、年度内に予

定していた学習を終えることが難しい場合、来年度か再来年度に繰り越し、2～3年かけて遅れを解消することを特例として認める通知を全国の教育委員会など

に出している。同市内の小中学校は新型コロナウイルス感染拡大の影響で3月から約3カ月間の休校となった。市教委は各校にす

べての学年が年度内に通常